

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【辻小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	今年度1年では実態によって十分に高まりきれなかった部分や進級後の高まりを見込めない部分もあると考えられるため、引き続き、月1度は学校全体で言葉に関する知識・技能を高める活動を継続して実施していく必要がある。また、状況に応じてその回数を増やしたり、朝の時間以外の授業中でも、実態や発達段階に応じた言葉に関する学習活動を帯活動として学校全体で授業中に取り入れてみたりと、改善策を検討していく。加えて、教科を国語科だけにとどまらず、算数科や他教科など視野を広げて、学年の実態に合わせた取組を行っていくことも検討する必要がある。
思考・判断・表現	今年度は学校課題研究の中心教科を「国語」と定めて、児童の思考・判断・表現の定着を図ってきた。来年度以降は、国語だけでなく、他教科においても同様にクラウドを活用した授業の展開を研究していく必要がある。全教員が自分事として自己決定した教科を中心に、今年度成果として得た手立てを活用しながら、学校全体で児童の思考・判断・表現の力を高めていく必要がある。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 国語科における「日本語や言語文化についての知識」について令和5年度さいたま市学習状況調査の結果がどの学年においても低かった。 【指導上の課題】 日本語の基礎的な知識を得る時間や回数の確保が十分でない。	⇒ ・低学年・中学年・高学年、それぞれの実態に合わせた、言葉に関する知識や技能を高める活動(低:視写、中:言葉の泉、高:短作文等)を定期的の実施し、学校全体での底上げを図る。 【月に1度実施。朝のチャレンジタイム内で。】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 国語科における自分の思いを書いたり話したりして自ら積極的に表現できる児童が少ない。 【指導上の課題】 児童が自信をもって自らの考えを表現できたと思える学習経験の積み重ねが少ない。	⇒ ・学習の見通しをもち、ゴールを明確化させ、自信をもって自らの考えを伝えることができる授業をクラウドも活用しながら、全校をあげて展開していく。 【授業の実施:各学年毎単元】【R6さいたま市学力調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいきました」についての質問項目において肯定的な回答が8割以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	月はじめの月曜日チャレンジタイムにおける言葉に関する知識・技能を高める活動を年間通して実施することができた。また、学校課題研究の活動を通して発達段階に応じた言語活動の模索も行うことができた。このような手立てを通して、年度当初に比べて各学年の実態により、多少の成果のばらつきは認められるが、言葉に関する知識や技能の高まりを感じることができた。
思考・判断・表現	A	学校課題研究の活動を通して、クラウドも活用しながら、児童がゴールを明確に持ち、見通しをもって学習に取り組むことができるような授業の展開を意識して行うことができた。さいたま市学習状況調査生活調査において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいきました」の項目に対する肯定的な回答が全体の児童の9割を越え、目標の8割を上回ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語における「正しい漢字の使用」「主語と述語の関係を読み取り」について課題がみられた。漢字は、今年度取り組んでいるチャレンジタイムの時間を活用して、学年別漢字配当表に示されている漢字の習熟に努める必要がある。主語と述語の関係に関しては、解答類型を見ると述語の直前にある言葉を主語と捉えている児童が多く、主語については理解が不十分だと考えられる。通常の文章の読み取りにおいて主語と述語の関係を意識しながら読み進めたり、文章を書いたりなどしていくことで、理解を深めさせる努力をしていきたい。
思考・判断・表現	国語における「自分の考えが伝わるように資料等を活用する」問題について課題がみられた。国語に限らずどの教科においても、自分の考えを相手に伝える場面を設定する際に、より根拠や意図が伝わる工夫として子どもたちに意識させながら活動に取り組ませる必要があると考える。また、算数においては「道のりが等しい場合の速さ」についての説明に課題がみられた。解答類型を見るとかかった時間との関係性を確認できない児童が多くなることが分かった。速さの問題についてはそれ以外の問題でも正答率が低い分野であることが分かったので、これらの学びにおいては「なぜそうなのか」と説明できるようにさせる授業展開を意識して行っていきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数科の知識・技能に関連した項目について正答率の低い学年があった。特に「小数の計算」や「速さ」に関わる問題に課題が見られる等、基本的な知識・技能の積み重ねが足りていない部分があることが伺えた。今後、国語科のみならず算数科についても朝のチャレンジタイム等を活用して、基礎的な知識・技能の定着を図っていく必要があると考えられる。
思考・判断・表現	国語科の思考・判断・表現においては市の平均を上回った学年とそうでなかった学年と分かれた。特に相手の意見や思いを汲みながら発言をしたり、考えをまとめたりする部分についてどの学年も課題が見られた。普段の学習や生活において、友達の見解と比べたり、複数の資料を比べたりして考える習慣をつけていく必要があると考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	月のはじめの月曜日のチャレンジタイムに言葉に関する知識・技能を高める活動を実施することができた。今後はより学年の実態に応じた内容を精選し能力の向上を図る。	変更なし
思考・判断・表現	B	学校課題研究の中で、ICTの活用方法について考えた。また、9月に校内研究授業を行うことで、学校全体のモデルとなる授業の形を示した。今後は、どの学年でも普段の学習から改善策を意識した授業を展開していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)